

兵庫県議会議員

編集・発行：五島壮一郎事務所  
 電話：079-239-5841  
 F A X : 079-236-2282  
 mail : info@s-goto.com  
 H P : http://www.s-goto.com  
 http://www.facebook.com/goto.soichiro.510



第353回定例県議会の一般質問に登壇しました。2面に詳細を掲載しています

春の気配もととのった好季節を迎えました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症による緊急事態措置は解除されましたが、変異ウイルスの感染も増えつつあり、歓送迎会や卒業旅行など人の移動や飲食の機会が多い時期でもあることから油断は禁物です。感染の再拡大を防ぐためにも、一人ひとりが「うつらない・うつさない」の強い思いで生活することが大切で、引き続き、気を引き締めて感染防止に取り組み、この難局をともに乗り越えていきましょう。

**コロナ後の社会変化に対応を**

さて、2月定例会となる第353回県議会をこのほど開会し、総額4兆6千億円を超える令和3年度県当初予算を可決、成立しました。過去最大の予算規模に膨らみましたが、新型コロナウイルスの影響で経営難に陥る中小企業を支援するため、貸付融資の目標額を過去最高の8千億円まで拡大したことが要因です。

一方、投資的経費は国庫補助事業、県単独事業、災害復旧事業それぞれで減少し、自然災害への備えなど緊急を要する普通建設事業費は2月補正予算と合わせた14カ月予算として捉え、前年度とほぼ同額を確保しました。

また、コロナ禍で2年分のデジタル改革が2カ月で起きたと言われています。日常を取り戻すためのコロナ対策はもちろん、コロナ終息後の新たな価値観に基づくポ

## ポストコロナ時代へ 今が挑戦のとき

ポストコロナ社会の到来という社会変化に対応していかなければなりません。

新年度事業では、自動運転や遠隔医療などを見据えた「デジタル化の加速」、サプライチェーン分散化などの動きに対応した「変化に強い産業構造への転換」、密から疎への潮流を引き込む「地方回帰」などを重要視して施策をとりまとめました。

また、将来構想研究会では、2050年を展望して兵庫が歩むべき姿勢を示した多様なシナリオを描き、これを基本に新たなビジョンの策定に向けて検討を進めていきます。

### 「すこやか姫路」へ全力投球

いかに厳しい財政状況にあっても、創意工夫をして次代に投資し、未来を先取りして活力に満ちた兵庫を創り上げていく姿勢が大切です。

昨年12月、井戸知事が今期で退任する意向を表明しました。5期20年にわたる着実に確かな歩みに最大限の敬意と感謝を贈りつつ、新しい兵庫のリーダーとともにポストコロナ時代に向けて手を携えて挑戦し、「すこやか姫路」の実現に引き続き全力投球していくことをお伝えし、ご挨拶といたします。

### 五島 壮一郎のプロフィール

- H12.3 姫路市立広畑小・中学校
- H15.3 兵庫県立姫路東高校卒業 (55 回生)
- H19.3 岡山大学工学部卒業
- H19.4 電子機器メーカー勤務
- H27.6 兵庫県議会議員 (1 期目)
- H29.6 農政環境常任委員会 副委員長
- R 1.6 兵庫県議会議員 (2 期目)
- 自民党県議団 副幹事長
- R 2.6 産業労働常任委員会 副委員長

### 【現在の代表的な肩書き】

兵庫県早朝野球連盟会長、兵庫県相撲連盟会長、吟道撰楠流姫路地区連合会相談役、(公財)姫路十字会理事、社会福祉法人理事、専門学校理事、自由民主党兵庫県第11選挙区支部青年部長、壮新会代表

## 令和3年度 県当初予算 総額4兆6千億円超で成立

### 中小企業の経営支援で融資目標8千億円

総額4兆6068億円に上る令和3年度県当初予算を第353回定例県議会で審議し、可決、成立しました。2月17日から延べ36日間にわたって審議し、新型コロナウイルスの経済的影響が長期化することを見据え、中小企業への資金貸付金として過去最大となる融資目標8000億円を確保しているのが特徴です。

第353回定例県議会・新年度予算など審議

### 高齢者 職員らにPCR検査も 施設

令和3年度当初予算の一般会計等の規模は、企業融資で上乗せした分を除くとほぼ前年度並みになりました。

普通建設事業費は令和2年度2月補正予算と合わせた14カ月予算とし、前年度と同規模の2630億円を計上。いつ起こるか分からない自然災害の備えや、減災対策など緊急的課題に取り組みます。このほか、予算の詳細は第3面に掲載しています。

一方、新型コロナウイルス対策は県内でもワクチンの優先接種が始まり、感染拡大を抑える一つの正念場を迎えています。

引き続き医療提供体制の充実やクラスター対策を徹底するとともに、ポストコロナ社会を視野に入れた各種政策も盛り込みました。

結果、令和3年度の事



第353回定例県議会で令和3年度当初予算を可決しました

### 不妊治療の検査費補助制度を創設

国が不妊治療の助成制度を大幅に拡充したことを受け、県は夫婦一緒に検査を受ければ費用の一部を補助する制度を新たに創設しました。また、不育症治療も、国制度では対象外の費用を支援することにしました。

令和3年度県当初予算 1364 事業を展開・主な事業



▷新型コロナ対策◁

【相談体制・ワクチン接種体制などの整備】新県民相談窓口（コールセンター）の人員体制強化、ワクチンの医療従事者への優先接種、市町による高齢者等への優先接種を適切に実施する体制を整備



【移動型PCR検査システム開発への支援】移動型PCR検査システムのコンパクト化に向けた開発を支援

【ワクチン接種体制の推進】市町による高齢者等へのワクチン優先接種を実施するため、各種調整業務等に必要となる体制を整備

【妊産婦総合支援事業の実施】

妊産婦に分娩前にPCR検査等を受ける際の費用を助成



【障害福祉分野のICTモデル事業・ロボット等導入支援事業の実施】感染拡大防止でICT導入やロボット等の導入を支援

【幼稚園の感染防止対策・ICT化への支援】

【商工会・商工会議所の相談機能強化事業の実施】窓口相談の対応で商工会・商工会議所がOB等を雇用する費用を臨時的に支援

【がんばるお店・お宿応援事業】コロナ禍の影響を受け、売上が減少し

ている飲食店等によるテイクアウトやデリバリーなどの事業展開や感染防止対策を支援

【県で1200人規模の緊急雇用】新型コロナの影響で職を失った人などを対象に、1200人規模の緊急雇用創出事業を実施。新たな職が見つかるまで、県の関連業務で一定期間就労する

▷そのほかの主な事業◁

【三世代同居対応改修工事推進事業の実施】三世代同居など複数世帯が同居するための改修工事を補助

【オンライン診療へ検討会】どんな地域でも質の高い医療が受けられるよう、遠隔医療の導入に向



けた検討会を設置

【姫路に新病院 4

年度供用】救命救急センターを含む病床数736床の県立はりま姫路総合医療センター（仮称）を令和4年度上期から供用開始する。3年度は建設工事のほか、広畑病院との連携を一層強化して統合に向けた準備を進める

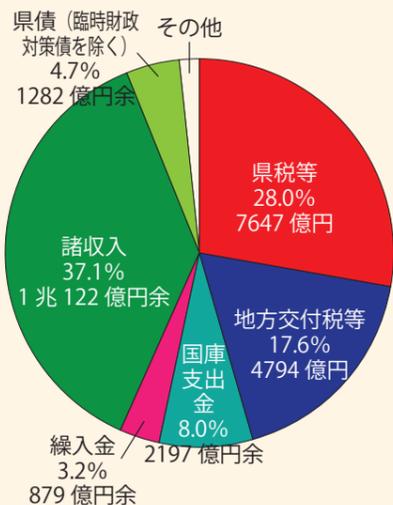
【建設業の人材確保を支援】コロナ禍での雇用・収入の安定と建設業界の人材確保を図るため、建設現場での就労に向けた未経験者への知識・技能習得訓練を実施

【自殺対策で意識調査実施】急増する自殺者に対し、各種の相談窓口を拡充。コロナが与えた影響などを把握する意識調査を実施

令和3年度県当初予算(一般会計)の歳入・歳出内訳

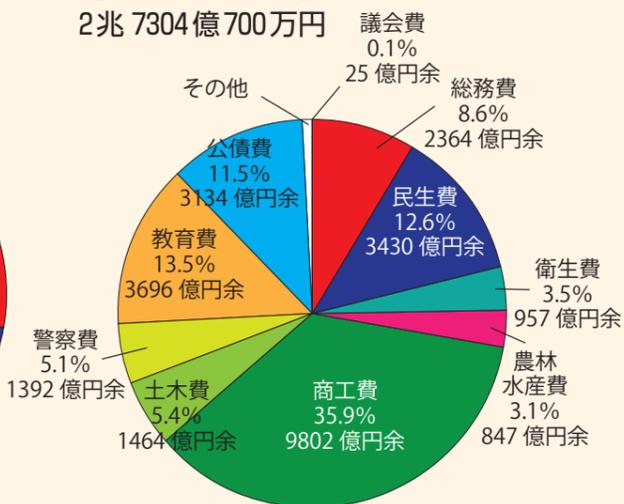
【歳入】

2兆7304億700万円



【歳出(目的別)】

2兆7304億700万円



令和3年度の県当初予算は一般会計が2兆7304億円、特別会計などを合わせた総額は4兆6068億円です。最大の規模となりました。ポストコロナ社会へのスタートを切る予算に位置づけられています。

歳入では、県税収入が全体で前年度より919億円を下り、地方税等の減収措置として認められた特別減収対策債の発行などで前年度から32億円増

ポストコロナへスタート予算

令和3年度過去最大の規模に

の1283億円となりました。臨時財政対策債、減収補てん債を除く実質的な県債残高は3兆379億円です。歳出では、行政経費が中小企業の融資制度拡充で上乗せされ、前年度比で7617億円増となる1兆5464億円を計上しました。上記グラフでは目的別で示しています。

財政フレームによる令和3年度の県税収入等は、昨年9月時点で約2000億円の減少見込みと示されましたが、直近の経済動向などを勘案した結果、約1025億円の減少に修正しました。

県財政の今後の見通しは、令和3年度までは収支均衡を維持できる予想ですが、4年度から9年度にかけては総額で330億円の収支不足額が発生する見込みで、今後の懸念材料となっています。

一方、傷ついた地域経済の回復や、来たるべきポストコロナ社会に適合した新時代の兵庫づくりを果敢に取り組まねばなりません。コロナ禍で露見した社会的な脆弱性や新しい価値観に対応しながら、将来に夢と希望を持てる地域づくりに臨んでいきます。

決算特別委員会の委員に選任・集中審議

6分野27項目で対応求める



決算特別委員会の委員に選任され、昨年10月1日から21日にかけて令和元年度一般会計などを集中審議しました。6分野延べ27項目について質問し、県当局の対応を求

めました。主な項目を紹介します。

【財政状況】

指定管理者制度について ▶基金の運用について ▶自動車税に関する制度改正の影響について ▶コロナ禍による県税徴収猶予の特例措置の影響について ▶県税に

おけるその他の感染症対策について

【企画県民部】

県契約における適正労働条件確保のための最低制限価格制度等の導入について ▶「ひょうご安全の日」の推進に

ついて ▶ひょうご防災ネットの運営について ▶一般行政部門職員の年齢構成の平準化について

【健康福祉部】

歯科口腔保健施策の充実・推進について ▶ケアマネジャーの資質向上に向けた行政の支援について ▶ひょうごケア・アシスタント事業について ▶放課後児童クラブ開所時間延長支援事業について ▶血液確保対策事業について

【公安委員会】

Live110(ライブイイチマル)の運用について ▶サイバー犯罪捜査に携わる人材の育成について ▶児童虐待にかかる警察と関係機関との連携につ

いて ▶SNS・インターネット利用に起因して子どもが巻き込まれる性犯罪被害等の防止について

【県土整備部】

イメージハンプの活用について ▶豪雨に備えたダム的事前放流等の取組について ▶渋滞交差点の解消について ▶姫路港広畑地区の発展について ▶建設業界における中小企業への働き方改革の取組み支援について

【教育委員会】

県立高校における外国語指導助手(ALT)の活用の充実について ▶教職員の多忙化の解消策について ▶文化財の保護と今後の活用について ▶県立高校におけるSDGsを扱った取組みについて



一般質問  
に登壇!

# 県当局に6つの提言

第353回定例県議会で3月1日、一般質問に登壇しました。内容は「高齢者のデジタル社会適応の支援」「兵庫の水素社会の実現」「鳥インフルエンザ対策」

「豊かな瀬戸内の海づくり」など6項目をまとめ、県当局に提言しました。下記に各項目を要約し、ご紹介いたします。

## 高齢者のデジタル化適応に支援を

### 【五島質問】

インターネットを活用した行政サービスは今後、さらに増加する。総務省は今年度、デジタル活用支援員が高齢者などにデジタルサービスの利用法を教える実証事業を全国で行い、来年度から本格実施する。高齢者など、支援が必要な人が社会のデジタル化にスムーズに適応できるよう支援に取り組むことが必要だ。

### 【県当局】

高齢者大学でのパソコン活用講座

の開催や在宅オンライン授業の導入などで高齢者にICT活用の機会を提供している。行政手続きのオンライン化では、高齢者でも利活用が進むように、使いやすいアプリやソフトに改良するなど配慮し、地域の身近な人が高齢者等の学びを支援する「デジタル活用支援員制度」の組織化も市町に働きかける。



## 鳥インフルエンザ対策の徹底必要

### 【五島質問】

鳥インフルエンザ対策として、香川県や徳島県ではため池周辺の緊急消毒を実施するなど、渡り鳥が飛来するところまで消毒を行ったケースもある。本県でもこれまで通りの対応で良いのか疑問で、県内の養鶏業者は神経をとがらせている。全国的な発生を踏まえ、どう取り組んでいくのか。

### 【県当局】

農場への野生動物の進入防止や農場ごとの個別の防疫作業マニュアルづく

りなど防疫対策の強化に取り組んでいる。香川県で発生が頻発したことから、消石灰の配付、鶏舎周辺の消毒、生産者による防鳥ネットの点検と修繕、すべての農場への立ち入り指導など警戒を強めている。また、大規模発生対策として、防疫のための現場作業員の増員、県職員の動員の事前登録拡大などで備え、対策を強化していく。



## 脱炭素社会へ温暖化対策いかに

### 【五島質問】

地球温暖化は自然災害の頻発化・激甚化や、農林水産物、自然生態系などに深刻な影響を及ぼすもので、その対策は世界共通の喫緊の課題だ。

本県では、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする方針を表明し、国でも同様の目標が打ち立てられた。

産業立県とも言われる本県は多くの工場や事業所が集積し、温室効果



ガスの削減が進みにくい産業構造にあるとも言われるが、温暖化対策をどう進めていくのか。

### 【県当局】

本県は、特に産業部門の占める温室効果ガス排出量が66%、全国平均の39%に比べてはるかに高いという状況がある。

産業・業務部門で県条例に基づく排出抑制計画・報告・公表制度を強化。創エネ・省エネ設備の計画導入や工場屋根への太陽光パネル設置などの補助や、極めて低利な融資制度などで支援していく。

## 瀬戸内海の再生へ法改正活用を

### 【五島質問】

瀬戸内海では厳しい水質規制で富栄養化が改善された一方で、生物の成長に必要な栄養塩が減少し、漁獲量が減少したり、ノリの色落ちが頻発するなど海の豊かさが失われてきた。

国では瀬戸内海環境保全特別措置法の改正を進め、関係府県の知事が特定の海域における栄養塩の濃度を増やせるようにする管理制度の導入が盛り込まれている。

この動きを



踏まえ、県は豊かな海の再生にどう取り組むのか。

### 【知事】

改正瀬戸内海法案が閣議決定され、本県の考え方と施策が反映された栄養塩管理制度が創設されることになった。瀬戸内海の各海域で関係府県の栄養塩管理の取り組みが計画を定めることで拡大することになる。また、栄養塩供給を行う工場の排水規制緩和などの特例制度が法案に盛り込まれており、本県の先進的な取り組みを法制度のもとでさらに本格化させていく。

## 国際水素サプライチェーン拠点 姫路港に誘致めざせ

### 【五島質問】

次世代のエネルギーとして、水素の活用が期待されている。

県では、2030年ごろに水素の輸入を本格化する国の方針を受け、国際的な水素サプライチェーンの拠点となる水素受け入れ基地の県内立地について調査をまとめた。これによると、姫路港が今後の国際水素サプライチェーンの拠点となり得る可能性が多分にあると考えられている。この水素受け入れ基地の誘致が実現できれば、そこに新たなビジネス展開や研究開発企業群が集積するこ

とも考えられる。こうした水素社会の実現に県はどんな役割を果たそうとしているのか。

### 【知事】

水素受け入れ基地の誘致場所は姫路港が適地ではないかと考える。既設のLNG基地やガスタービン発電所を活用した水素発電に加え、石炭の代わりに水素を用いた製鉄卸売市場での冷熱利用など、姫路エリアは多彩な水素利活用のモデル地域になり得る。



## 休日の部活動地域移行へ方針示せ

### 【五島質問】

学校の部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や多様な活躍を創出する場として意義がある一方、長年、教員の献身的な犠牲のもとに行われてきたという課題がある。

また、配属される教師数の減少で、校長などの管理職が部活動顧問の配置・割当てを苦慮する場面も想像できるほか、生徒数の減少で例えばチーム、団体競技のメンバーを学校単位で確保できない状況に陥り、部活動が存続できなくなっているケースが現実になり

ている。

文科省の部活動改革では令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行、都市・過疎地域における他校との合同部活動などが掲げられているが、どう取り組むのか。

### 【教育長】

国による休日の部活動を段階的に地域に移行するための実践研究で、西宮市と播磨町でモデル事業を実施する。この研究を踏まえ、さまざまな観点から慎重に検討していく。



# 姫路港 広畑地区で 国際物流ターミナル整備事業

## 国が新規事業化に着手!

これまで決算特別委員会などでねばり強く要望してきた姫路港広畑地区の「国際物流ターミナル整備事業」について、国は新規事業化に向けた手続きを今年4月から着手することを決めました。

広畑地区は日本を代表するものづくり企業が数

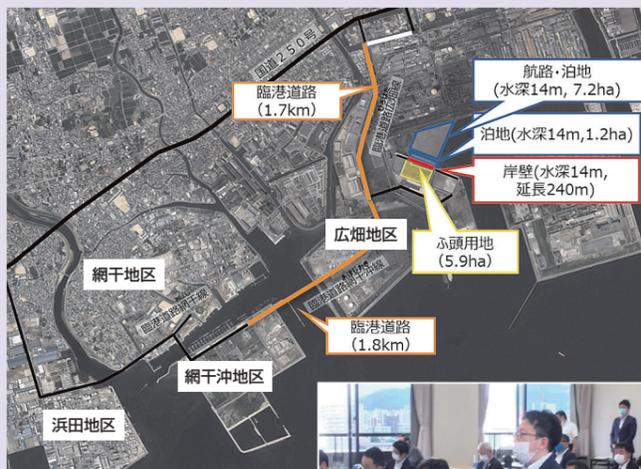
多く集まり、サプライチェーンの重要拠点として国内経済・産業の成長を支えています。網干沖地区の埋め立て事業も近く完成予定で、加えて播磨臨海部の物流ネットワークを強化することで、企業進出や設備投資がさらに促進されることとなります。

同事業は大型船舶の受け入

れを可能にする岸壁の新設や、航路・泊地、広畑区と網干区をつなぐ臨港道路などを整備するもので、埠頭間の連携を強化していくねらいもあります。

期間は令和3年度から12年度まで。事業費は270億円を見込んでいます。

今後とも、円滑な事業の執



行や港湾の利活用を促進するため、国や県、市、地元経済界と連携しながら地域の発展のため力強く取り組んでいきます。



各種会合などでねばり強く要望してきた結果、新年度に実現することが決まりました



### 県立はりま姫路総合医療センター 令和4年度供用開始

診療科目は総合内科や循環器内科、感染症内科、外科、リハビリテーション科など計34科。病床数は一般病床720床、精神病床16床で、新型コロナウイルス感染症の重症患者への受け入れを含め、一定の感染症対応ができる病室も整備します。

### 診療科目34科の総合病院 感染症対応の病室整備も

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院を統合再編した、「県立はりま姫路総合医療センター(仮称)」の整備が進められています。場所は姫路市神屋町のキャステイ21イベントゾーンで、約423億円の総事業費をかけて令和4年度上期の供用開始をめざします。



育・研究部門も一括で整備することになっています。完成イメージ図(上)と整備中の県立はりま姫路総合医療センター(仮称)(左)

### 五島壮一郎県会議員の フォト・レポート



▲令和5年度から暫定2車線の供用開始をめざして、正門通りから姫路西バイパスをつなぐ南北道路となる一般県道広畑青山線を整備中。現在はJR山陽本線交差部を施工しており、道路を掘り下げて交差道をくぐる区間300mのアンダーパス方式で進めています。なお、山陽本線は公共交通の大動脈であるため、列車が通行していない深夜の時間帯に工事を行っています



▲新型コロナウイルスの影響で、献血バスの出前出張先が減少し、献血量も減っています。少林寺拳法西播第一小教区支部の方から依頼を受けました。私も献血に協力。尊い命のための一助になれば幸いです



▲令和4年度上期の供用開始をめざして建設中の県立はりま姫路総合医療センターを視察



▲理化学研究所と富士通が2014年から開発を進めてきたスーパーコンピュータ「富岳」。今年3月に完成し、神戸市・ポートアイランドの理化学研究所計算科学研究センターで共用を開始しています。最大で「京」の100倍というアプリケーションの実効性能があり、学術・産業分野で活躍しています

### 中播磨県民局・新年度の主な事業

【思わず訪れたいくなる中はりま】  
日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進プロジェクト(つなぐ銀の馬車道～轍プロジェクト、銀の馬車道ブランドの



銀の馬車道の発着点の飾磨津物揚場跡

推進、「銀の馬車道・鉱石の道」の見える化と魅力発信)▶思わず行きたくなる中はりま誘客推進▶豊かな資源を活かした食の魅力発信(食と農で結ぶ夢街道づくり、はりま姫路の前どれ海の幸グレードアップ作戦、中はりま食文化の発信)  
【若者・女性が活躍できる中はりま】  
中はりまの企業PR大作戦(UJIターン対策)▶産学

官連携による若手人材確保と産業力の強化▶女性の活躍を促進する企業セミナー▶中はりま農的くらし定着支援▶高校生による日本遺産魅力発見ワークショップ  
【活気とにぎわいのある中はりま】  
観光クルーズ客船の誘致強

化▶ものづくりを支える人材確保支援▶中はりま農業パワーアップ作戦  
【暮らしやすさナンバーワンの中はりま】  
ふるさと意識、地域への愛着の醸成(未来へつなぐ中はりま農業水利の歴史事業、中播磨地域ビジョンの推進)▶

暮らしの安全・安心の推進(高齢者の低栄養・フレイル対策、授産品の販路拡大支援、災害時における医療提供に関する情報伝達訓練・研修事業)

本県政報告へのご感想、お困りごとや地域の懸念事項など 皆さまからのご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

五島壮一郎事務所  
兵庫県姫路市広畑区北河原町18-1  
Tel 079-239-5841  
Fax 079-236-2282